



氏名	坂本 実理
所属	現代システム科学域 知識情報システム学類
学年	2年
留学先	マレーシア sep (マラヤ大学)
留学期間	2026/2/15~2026/3/8

Figure 1 トリップ

## 1. 留学のきっかけ

大学に入学してから、いつか留学に行きたいとずっと考えていました。しかしタイミングを逃してしまい、この機会を逃すと就職活動や研究で忙しくなってしまうと思い、進級前のこのタイミングで思い切って応募しました。もともと海外の文化に興味があり、これまでもいくつかの国を訪れたことがありました。そのため、語学の勉強だけでなく、現地の生活や雰囲気を実際に体験してみたいと思い、この短期留学プログラムを選びました。マレーシアを選んだ理由は、費用面やサポート体制の充実に加えて、多様なルーツを持つ人々が暮らしている多民族国家であるという点に魅力を感じたためです。マレーシアへの留学には二つのプログラムがありますが、今回は語学を中心に学ぶプログラムに参加しました。

University of Malaya のプログラムでは、語学の授業だけでなく、伝統舞踊や音楽の体験、歴史や文化を学ぶ活動なども予定されており、スケジュールを見るだけでも充実した内容であることが分かりました。留学に対して非常に高い志を持って参加したわけではありませんでした。真面目に授業に参加し、バディとコミュニケーションを取る中で、英語力だけでなく人としても成長することができたと感じています。

## 2. 留学までの流れ

留学までの流れとしては、まず大阪公立大学のホームページでこのプログラムを見つけました。その後、UNIPA で詳細を確認し、担当の方に相談したうえで参加を決めました。時期は 10 月の終わり頃だったと思います。その後、オンラインで 2 回の説明会があり、さらに対面での顔合わせや先輩への質問会が行われました。それらを終えた後、実際に研修に向かうという流れでした。応募から研修までの期間は比較的短く、応募すれば比較的すぐに研修に参加することができるという印象でした。また、学校側が手厚くサポートをするというよりは、プログラムを仲介してくれる形であったため、必要な準備は基本的に各自で行いました。出発前には保険の手続きなどを済ませ、関西国際空港で集合し、全員で現地へ向かいました。到着後に現地のバディと合流し、留学生活が始まりました。

## 3. 留学中のスケジュール

平日の基本的なスケジュールは、朝 8 時に朝食を取り、9 時から 4 時間の英語の授業を受けます。その後、伝統文化に関する授業か歴史文化探訪のいずれかの活動を行います。英語の授業は、リーディング、ライティング、文法、会話の 4 種類に分かれていました。授業は主にスライドを使って進められ、内容を聞きながら学び、時々指名されて答えるという形式で、日本の授業と似ている部分もありました。

授業の合間の休憩時間には、大学内にあるカフェでコーヒーを買うこともできました。また、伝統文化の授業では、音楽かダンスのどちらかを選択することができます。

音楽では、鍋のような形をした楽器や太鼓に似た楽器など、マレーシア特有の楽器を使って演奏を体験するそうです。私はダンスを選択しましたが、マレーシアの伝統舞踊だけでなく、中国やインドの文化に由来するダンスも学びました。伝統文化の授業は2日に1回程度行われ、昼食後の14時半頃から約2時間ほど実施されました。その後にはアフタヌーンティーの時間が設けられていましたが、日本のアフタヌーンティーのように甘いお菓子が多いわけではなく、軽食のような内容でした。

休日については、土曜日には1日かけたトリップが企画されており、大学から離れた観光地を訪れて歴史や文化を体験しました。日曜日は完全に自由時間で、日本人学生やバディと計画を立てて出かけたり、ホテルで休んだりして過ごしました。



Figure 2 終業式

#### 4. 実際に経験したこと

##### (1) 授業について

授業は日本と同じく週5日行われました。1コマは2時間で、先生によっては途中で10分程度の休憩を入れてくれることもありました。英語の授業は日本で受けてきた授業と似ており、文章を書いたり、時制などの文法を学んだりしました。また、ローカルバディも授業に参加し、グループワークも多く行われたため、積極的に参加しやすい雰囲気でした。授業の中では話し合いの機会が多く、英語を話す機会も自然と増えました。文法の授業ではGoogleフォームを使った小テストが行われることもありましたが、結果について厳しく評価されることはなく、積極的に参加することが重視されているように感じました。マレーシアの伝統ダンスや音楽の授業は週に2~3回程度行われ、現地の先生が指導してくれました。私はダンスを選択したため音楽の授業の詳細は分かりませんが、ダンスの授業では日本とはリズムの取り方やステップが大きく異なり、私にとってはとても難しく感じました。しかし、授業はとても和やかな雰囲気です。学生同士で振り付けを教え合ったり、先生の見本を見ながら練習したりと、楽しみながら取り組むことができました。難しい部分は簡単な動きに変えてくれることもあり、安心して参加することができました。

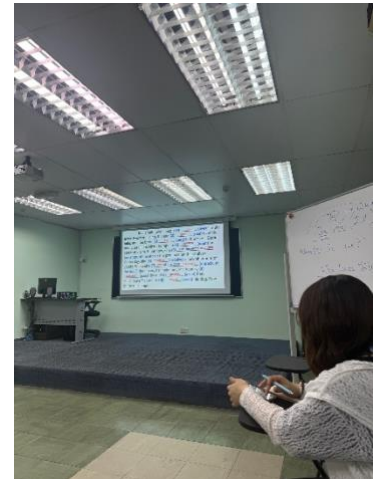


Figure 3 授業風景

##### (2) バディとの交流

このプログラムでは、日本人学生3~4人に対して現地のバディが1人つく制度がありました。班は大学が異なる学生同士で構成されることが多く、このグループ単位で行動することが基本でした。授業もバディと一緒に受けることが多く、食事や外出もグループで行うことが多かったです。バディによっては放課後に夕食に連れて行ってくれたり、観光地に案内してくれたりすることもありました。バディとの会話は基本的に英語で行うため、日常生活の中で英語を使う良い機会になりました。ローカルバディにはマレーシア人だけでなくインドネシア人の学生もおり、文化の違いを感じる場面も多くありました。また、イスラム教を信仰している学生も多く、滞在時期がちょうどラマダンの期間だったため、昼間は食事をとらず、日が沈んでから夕食をとるという生活をしていました。そのため、夜と一緒に過ごす時間が多くなり、朝の授業と夜の活動が続くことでスケジュールは比較的忙しく感じました。さらに、日本とは金銭感覚が異なる場合もあるため、一緒に出かける際には互いに配慮することも大切だと感じました。

### (3) 授業以外の時間

放課後は、近くのモールへ食事に行ったり、タクシーで飲食店へ移動したりすることが多かったです。時にはボウリングやカラオケに行くこともありましたが、基本的には食事をしてホテルに戻ることが多かったです。待ち合わせは夜 7 時半頃にホテルのロビーで行われることが多かったため、それまでの時間に洗濯をしたり、簡単な課題をしたりして過ごしました。もし外出が難しい場合には、配達サービスを利用してホテルで食事をとることもできました。土曜日のトリップではクアラルンプール周辺の観光地を訪れ、写真を撮ったり、文化体験をしたりしました。バスで 2 時間ほどかけてマレーシア発祥の地を訪れたり、郊外で凧揚げなどの伝統的な文化体験を行ったりしました。



Figure 4 学食

### (4) 困ったこと

大きく困ったことはありませんでしたが、留学前に現地の情報があまり多くなく、主に先輩からの話を頼りに準備を進めていました。そのため、実際に行ってみて初めて知ることも多く、白い靴下が必要だったことなどは現地で気づきました。また、事前に聞いていたホテルとは別のホテルに宿泊することになったため、情報の伝達が十分ではないと感じる場面もありました。ホテルの設備は最低限で、時々バスタオルが不足していたり、床が濡れていたりすることもありました。食事については私自身には合っていましたが、日本食を少し持って行くと安心できると思います。また、割り勘をする場面も多いため、現金はある程度持って行った方が便利だと感じました。

### 5. 留学を通して学べたこと

この留学を通して、目に見えて英語力が大きく向上したという実感はありませんでした。しかし、英語で話すことへの抵抗が少なくなり、相手に伝えようとする積極性や自信を身につけることができたと感じています。また、3 週間という短い期間ではありましたが、グループで生活する中で協力することの大切さや社会生活の基本を改めて学び、人として少し成長することができたと思います。マレーシアは多民族国家であり、宗教や文化の違いを身近に感じるすることができました。ラマダンの期間に滞在したことで、宗教によって生活習慣が大きく変わることを実際に体験することができ、異なる文化や価値観を理解することの重要性を実感しました。今回の経験を通して、海外で生活することへの抵抗が少なくなり、新しい環境にも前向きに挑戦できる自信ができました。今後も英語の勉強を続けるとともに、異文化への関心を持ち続け、この経験を大学生活や将来に活かしていきたいと考えています。